

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	住宅販売会社 （代表）	販売量の動き	・当市でリフォームに対する補助金が発表され、それに対する問い合わせや見積依頼等が増えている。
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	お客様の様子	・春物商戦の立ち上がりが遅れていたが、天候の回復とともに回復傾向にある。
		商店街（代表 者）	販売量の動き	・販売量、来客数ともに増えている。前年の東日本大震災の影響は大分薄れている。客の購買意欲が高まっている。
		商店街（代表 者）	販売量の動き	・異動の時期であり、例年通り、商品の切替えや新規の注文が増えている。
		商店街（代表 者）	それ以外	・商店街の空き店舗に出店予定が2店舗あり、景気は少しずつ上向いている。
		商店街（代表 者）	お客様の様子	・入学シーズンのため、家族連れの買物客や子ども連れの客が目立っていた。必要な物以外に目を向けることはあまりないが、必要な物はしっかり調べて買う様子がうかがえた。
		一般小売店〔生 花〕（経営者）	販売量の動き	・開店やお祝いの花の需要が2、3か月前に比べると多く、景気は良くなっている。
		百貨店（売場担 当）	販売量の動き	・ゴールデンウィークや東京スカイツリー開業に向けた旅行需要の高まりにより、旅行関連商品の動きが非常に良い。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・1人当たりの買上点数が増え、客単価が上がっている。4月は前年より上がっている。
		衣料品専門店 （経営者）	お客様の様子	・来客数が増え、しっかり買物をする客が以前より増えている。
		衣料品専門店 （チーフ）	単価の動き	・来客数は先月同様減少しているが、単価の動きが通常の1.5倍となっている。
		衣料品専門店 （総務担当）	お客様の様子	・中級所得者層の購買態度は依然として慎重な姿勢が続いている。ただ一部の高額所得者層には買物に対する前向きな姿勢が感じられる。
		家電量販店（総 務担当）	販売量の動き	・相変わらずテレビの売行きは不調であるが、白物商品の動きが出ている。
		自動車備品販売 店（従業員）	それ以外	・新車の販売が好調に推移しており、エコカー減税が延長になったため、購入が増えている。
		その他専門店 〔コーヒー豆〕 （経営者）	来客数の動き	・3か月前に比べると来客数は増えつつある。また、客の来店頻度が少しずつ高まっている。
		その他小売の動 向を把握できる 者〔土産卸売〕 （従業員）	単価の動き	・商品1個当たりの単価は下がっているが、販売数量が増えているため、売上が上がっている。
		その他飲食〔居 酒屋〕 （店長）	お客様の様子	・当地は前年の九州新幹線全線開業により、景気が上向いている。県の観光連盟等の集客もあり、全体的に盛り上がっている。
		観光型ホテル （スタッフ）	販売量の動き	・全部署とも予算は達成している。前年は東日本大震災の影響でキャンセルが相次いだ。今年は一昨年以上回る売上を確保できた。
		都市型ホテル （副支配人）	販売量の動き	・予約状況は会議等を中心に非常に良い。なお、通常の宿泊予約も好調であり、予約をしない宿泊客も多い。
		旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・前年の東日本大震災による旅行の自粛の反動で、ゴールデンウィークは大幅に売上が伸びている。特に今年は長期休暇を取り易い日並びとなっており、ヨーロッパや直行便が就航したハワイ等が好調である。国内は九州新幹線が一巡したことで、関西や東京へシフトしている。
旅行代理店（企 画）	販売量の動き	・前年の東日本大震災の自粛ムードから変わりつつあり、旅行需要が高まっている。		
通信会社（営業 担当）	お客様の様子	・客からの携帯電話の申込が徐々に増えており、各企業とも景気が少しずつ上向きになっている。		
音楽教室（管理 担当）	来客数の動き	・転勤等の影響で生徒数が減っていたが、また生徒数が増え始めている。		
設計事務所（代 表）	販売量の動き	・今までで保留にしていた客が契約し始めた。		
変わらない	商店街（代表 者）	お客様の様子	・卒業、入学、就職、結婚等の行事が多い時期であり、客の財布のひもは固く、かなり厳しい月となる。	

商店街（代表者）	来客数の動き	・暖かくなり、来客数が増加し、景気は上向きになりつつある。ただ、客単価が低下しており、売上実績は変わらない。
商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街の来街者数が、前年よりかなり減っている。また販売単価もかなり低い状況が続いており、非常に厳しい。
一般小売店〔茶〕（販売・事務）	販売量の動き	・前年より来客数は少なく、客単価も低い。贈答品の販売量が年々少なくなっている。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・4月の中旬までは気温が上がり、シニア客の来店が多く、売上は好調であった。ただ中旬以降、気温が上昇したため、春物の動きが悪くなった。
百貨店（営業担当）	単価の動き	・来客数及び売上は前年を下回っており、厳しい状況が続いている。ただ、店頭での買上単価は伸びている。現金、クレジット扱いの定価品の買上単価が上昇しており、次月への期待も持てる。別会場催事での来場促進や地域共同催事開催による来場促進により、商店街へ集客している。
百貨店（企画）	販売量の動き	・売上の前年比は3か月前と比較し、同水準で推移している。ただ、前年と売れ筋商品の内容が異なっている。前年は震災需要で食料品や寝具の動きが良かったが、今年は自粛ムードで低迷していたギフト関連商品が好調となっている。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・化粧品を含めた消耗品の動きは堅調であるが、ファッション商品の動きが弱い。買物に対する慎重さに変化はない。ゴールデンウィーク前の準備も必要な物だけに限られている。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・売上は前年比6.4%増と好調である。その他2店の競合店についても1店が前年比5%増、もう1店も前年実績をクリアするので良い状況である。当社の状況は婦人服が前年比14%増と伸びている。また紳士服が前年比10%増、身の回り品でも同10%増、食品が同100%という状況である。3か月前よりは2ポイントほど悪いが、他店状況と当社を考えると景気は良い。売上を押し上げているのは、客単価の上昇、購買客数の増加、それと購買率の高まりとなっている。
スーパー（店長）	来客数の動き	・食品を中心に来客数、客単価共に減少している。さらに競合店舗の出店等があり、状況は非常に厳しい。
スーパー（店長）	販売量の動き	・円安が少し落ち着き、株価も徐々に上昇し、客の消費動向に良い影響を与えている。ただ力強い景気の上昇とは捉えられない。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・衣料品は気温の上昇もあり、春物の動きが前年を若干上回っているが、住居用品は新生活用品、新入学用品等の動きが鈍い。学習机は新学期が始まった後に処分価格の商品を購入する客が例年になく多かった。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・売上、来客数をみると、前年の東日本大震災の影響はなくなり、個人消費は回復傾向にある。
スーパー（業務担当）	お客様の様子	・消耗品や日用品全般の動向は堅調であるが、食料品の放射能汚染問題は相変わらず消費者にとって足かせとなっている。天候不順による野菜の価格高騰もあり、しばらくは同じ状況が続く。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・依然として来客数の前年割れが続いている。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・客は必要な物は購入するが、それ以外の買物が少ない。先々の生活の厳しさを考慮し、無駄を省く様子であり、販売量は一向に増えない。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・売上は前年比3%減で、ほとんど変化がない。
コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・売上はかろうじて前年をクリアしている。企画等で販売量を伸ばしたために何とか前年を上回っている状況である。
コンビニ（エリア担当・店長）	販売量の動き	・前年に比べて来客数が少し伸びている。前年に比べて国産たばこの販売量が増えているが、プラス1品の購買はまだ少ない。
衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・何を買おうかとフロアを見て回る客が少ない。フェア等を行い、常連客の来店はあるが、売上は前年割れとなっている。
衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・定価品販売の時期であるが、まずまず物が動いており、前年実績を超えている。ただ東日本大震災の影響で前年は悪過ぎたということもあり、景気が良くなっているというわけではない。

乗用車販売店 (代表)	お客様の様子	・車の買換え周期が延びている。
乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・エコカー補助金の効果で新車の販売台数が好調に推移している。中古車販売やサービスの売上も堅調であり、目標の売上、利益を確保している。
住関連専門店 (経営者)	競争相手の様子	・毎月のキャンペーンであるが、前年と比べると売上は大幅に減少している。ただ2年前から手掛けている新規部門が今月は順調となっている。また地域産業祭での売出しと店舗での販売がうまく連動した。
その他専門店 [ガソリンスタンド] (統括)	販売量の動き	・燃料油の小売価格はやや低下傾向となっている。燃料油の販売量は、前年と比較してもさほど変わらない。客は燃料油の小売価格が変動するのは、仕方ないという様子である。
その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (支配人)	来客数の動き	・来場者数は前年を上回っており、このトレンドは数か月前から変わらない。
高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・売上の前年比マイナスが顕著となっている。
スナック (経営者)	来客数の動き	・常連客の来店頻度が落ちており、今月は団体客がほとんど見られなかった。
観光ホテル (総務)	販売量の動き	・雇用情勢は良くなっていると聞かすが、消費が拡大している状況ではない。
都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・一昨年の状況と比較するとほぼ同様の入客状況で大きな変動はない。
タクシー運転手	来客数の動き	・今月の景気は前回とそんなに変わらない状況である。しかし観光客はいくらか戻りつつある。今月も月末に入って、様子が変わってきており、ホテルの稼働がかなり良くなっている様子である。ホテルからタクシーを呼ぶ客が増えており、いくらか景気は良くなっている。
タクシー運転手	来客数の動き	・今月の夜の売上はもう少し良いかと期待していたが、かんばしくない。また昼夜問わず郊外の大きなショッピングセンターに客が行くため、市内は閑古鳥が鳴いている。
通信会社 (管理担当)	それ以外	・変わらず資金繰りが厳しい。
通信会社 (業務担当)	販売量の動き	・例年3月をピークに販売数は大きく落ち込むが、今年は特にスマートフォン人気が続く、価格も下がったことから販売台数は何とか前年を上回っている。
ゴルフ場 (従業員)	来客数の動き	・今年に入ってからずっと観光面は好調に推移している。予約状況も今月、ゴールデンウィーク、来月と好調を推移しており、来客数は前年比10%増と伸びている。
ゴルフ場 (支配人)	来客数の動き	・4月前半は会社等の異動時期にあたるため、ゴルフをする人がやや減少する。天候は週間単位で周期的に変わっているが、晴れの日が多く、ゴルフには快適な気象条件が続いている。東日本大震災後の前年に比べると今年の来場者数は順調に推移している。
美容室 (経営者)	販売量の動き	・3か月前と比べて少し上向いている。それにしても景気対策が少し遅れている。
美容室 (店長)	お客様の様子	・ゴールデンウィーク前で結婚式の着付け予約は入っているが、他の客は少ない。
その他サービスの動向を把握できる者 [介護サービス] (管理担当)	来客数の動き	・4月より介護報酬改定があり、マイナス改定により売上は減少する。
住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・宅建業の仲介業務は売買の問い合わせ等が量的に変わず、景気は上向きになっていない。
やや悪くなっている	一般小売店 [青果] (店長)	・野菜の入荷量は安定してきたが、入荷量が多い物はかなり値段が下がり、需要も低い。ギフト関係の日向夏は前年の8割の価格しかつかず、厳しい状況である。
	百貨店 (営業担当)	・ファッションの動き、特に高級衣料の動きが良くなっている。中流層は競合店も多く、厳しい状況であるが、ラグジュアリーブランドの動きが非常に良くなっており、景気はやや良くなっている。

	百貨店（営業政策担当）	競争相手の様子	・九州主要百貨店において、前年下半期に売上が前年比100%ペースで推移してきた店舗も、直近では前年を下回る状況が続いている。
	スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合店出店前の時期となり、競合各社はチラシの乱配をしている。売上の前年比は先月から3ポイント程落ちている。来月末に競合店がオープンするため、値下げをしており、売上は厳しい状況である。
	スーパー（総務担当）	競争相手の様子	・先月同様の消費動向であり、客は依然として低価格志向である。低価格戦略で競合店間での客の争奪戦が繰り広げられている。企業間の競争激化が止まらない状況に加え、新規の大型店参入に伴う来客数の減少があり、厳しい状況となっている。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・決算が過ぎ、客の来店が減り、受注が極端に減っている。
	その他専門店【書籍】（地区支配人）	販売量の動き	・ショッピングセンター間の競争が激化しており、来客数の減少が続いている。販売量が減少しており、売上は前年を下回っている。3か月前よりもやや悪くなっている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・平日のタクシー利用が昼夜共に悪く、金曜日と土曜日の夜だけ増えている。
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・本来繁忙の時期であるが、販売量の盛り上がりがない。
	通信会社（総務局）	販売量の動き	・前年のアナログ放送停波による駆け込み需要の反動もあるが、前年に比べ新規契約数は約2割減となっている。
悪くなっている	一般小売店【鮮魚】（店員）	競争相手の様子	・同業者に聞いても本当に売れてないといった話を聞く。今年は景気が悪いという話ばかりである。
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数が前年比10%減と非常に落ち込んだ。特に土、日曜日の来客数が前年比15%減と著しく落ち込んでいる。客の消費動向に力がない。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・前年は震災特需があったので、水、食料品、乾電池等が非常に良く動いていたが、今年はその動きがないため、売上がかなり落ち込んでいる。
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・3か月前と同様に、客の買物動向はますますシビアになっている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・景気の悪い話ばかりがメディアで放送されるので、皆がお金を使わなくなっている。気候は良くなったが、人の動きは悪くなった。
企業動向関連	良くなっている	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き ・今月は過去最高の売上を記録した。前年暮れから売上は右肩上がりが続いている。家具業界の同業他社も今年は売上が好調である。民間の大型商業施設の新設が続いていることが第一の要因である。内需に期待感があり、復興需要もあるのでしばらくは市場は活況を呈していく。
	やや良くなっている	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き ・受注が例年になく多い。中国での生産が減り、国内の工場も減っており、受注状況が良い。ただ全体の景気が良くなっているのかということそうではない。消費税と電力の問題は中小企業にも大きな問題である。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き ・受注量が増加している。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き ・新しい取引先から大量の仕事が出ており、稼働率が上がっている。受注量、販売量の動きが良くなり、しばらくはこの状況が続く。
		金融業（営業）	取引先の様子 ・3か月前は製造業の海外移転により、将来の需要不足を下請企業は心配していた。状況は変わっていないが、国内の設備投資が増加し、受注は一定水準を保っており、安定している。
		経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き ・今月は全般的に取引先の売上は好調であった。
		経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き ・受注量が順調に推移しており、問い合わせが増えている。
変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き ・歓送迎会等外食、居酒屋向けの動向に期待していたが、さほど売上にはつながっていない。量販店向けも生肉の食中毒問題の影響が依然残っている。ただ、加工メーカー向けの原料肉は相変わらず不足傾向となっており、引き合いが強い。	
	農林水産業（従業員）	取引先の様子 ・生乳の委託販売において、牛乳の消費量が少なく、厳しい状況である。	

		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・商品の動きは低調であり、売上も厳しい状況である。景気が上下しているとは思わない。
		精密機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量が減少し、3か月前と変わらない状況が続いている。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・4月末から始まるゴールデンウィークを控えて、月末にかなり在庫すると見込まれていたが、予想外に動きがない。食品関係は連休ということもあり、帰省等で買いだめをしている客もいたが、食品以外は一般的に動きが悪かった。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・年商1億円前後の建設業関係の受注は、一般的に堅調に推移している。ただし職人不足に伴う労務費の上昇があり、利益率の増加までには至っていない。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・九州の主要産業である自動車の生産台数は増加しているものの、部品メーカー全体までは好景気が行き渡っている様子はない。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・受注量の減少及び受注価格が低下している。
		その他サービス業〔物品リース〕（役員）	受注量や販売量の動き	・設備投資における引合件数は3か月前より増加傾向である。ただ大型案件が少ないため、契約高はほぼ同水準で推移している。
	やや悪くなっている	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・再生可能エネルギーに関連する設備製造の工事が一段落した。今年度の設備投資が未着手のため、受注案件が少ない。
		輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・過去において荷物の量が爆発的に増加する時期であるが、最近では、通常の月とあまり変わらないようになってきている。
		通信業（経理担当）	取引先の様子	・原子力発電所の再稼働が日本経済の浮沈のカギを間違いないと握っている。それに水をさすかのように反対派が息巻いている。永遠に原子力発電所に依存するというわけではないが、徐々にクリーンエネルギーにシフトしていく必要がある。
	悪くなっている	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・5月の連休が終わり官公庁の発注が出てくるため、それまでは発注の予定がない。ピークは6、7月になる。
		経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・酒業界において小売店、卸の衰退が激しく、酒メーカーにおいても休業が続いている状況で厳しい。
		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村の予算は、委託業務として業者に発注する調査や計画、土木、建築設計に関する業務の予算が前年より減少している。日常業務の維持管理に関する業務が中心となっている。これまで委託業務として出していた業務の予算規模もさらに低価格となっている。
雇用関連	良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人依頼数が前年比30%増と増えている。
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・接客業を中心に単発や長期の求人が依然として多い。派遣会社への依頼も多いが、求人誌や新聞等でも求人が多く掲載されている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・人材派遣について販売応援の依頼が増えている。また、販売促進の派遣においても新商品のPR等の依頼が増えている。
		求人情報誌制作会社（編集者）	周辺企業の様子	・地場大手コールセンターの採用が困難になっている。採用コストが跳ね上がっている。
		職業安定所（所長）	求職者数の動き	・新規求人は平成22年3月以降、前年比は増加傾向が続いているが、平成23年12月以降は1けたの小さい伸びにとどまっている。一方、新規求職者は減少傾向であり、最近この2、3月は2けたの減少となっている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者は前年比15.6%の減少となっており、雇用状況は改善傾向にある。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	採用者数の動き	・採用計画を満たさないまま選考活動を終了している企業が見受けられる。一方で、本年3月既卒の採用がある。また、最終的な求人件数は前年比7%増となった。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・企業の新卒採用意欲は前年より活発である。専門学校なので、サービス系、一般職、システム系が中心である。ここ数年の採用控えの反動を感じる。景気の見通しと連動している。
変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・事務系及び長期の新規派遣求人が増える時期であるが、今年は目立った増加は無く、例年並みの依頼数であった。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・製造業において前年ほどの大量の求人がみられない。	

	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	周辺企業の様子	・九州新幹線が全線開業して1年を迎え、前年の東日本大震災の影響時と比較すると、落ち着きを取り戻している。アジアからの観光客が少しずつ増加傾向にあるが、景気の回復には至っていない。
やや悪くなっている	人材派遣会社 ( 社員 )	求職者数の動き	・仕事がないことに慣れ、条件を選び好みし、働かない求職者が多過ぎる。セーフティネット等の制度に甘えている人が多い。
悪くなっている	民間職業紹介機関 ( 支店長 )	求人数の動き	・求人数は前年の半分程度である。業種を問わず人材需要はない。